

5月のイベント情報

水生生物観察会

里山には、どんな生き物がいるんだろう？池や小川の生き物を観察します。

開催日時 5月4日（日）

午前10時から12時まで

定員 20名

開催場所 オオムラサキ自然公園

講師 窪田 茂（山梨淡水生物研究会）

持ち物等 あみ・長ぐつ・観察用の水そう・汚れてもよい服装

参加費 無料

遊びの伝承

伝えたい、楽しい遊びを学びましょう。

開催日時 5月11日（日）

午前10時から12時まで

定員 20名

開催場所 オオムラサキ自然公園

服装 動きやすい服装

棚田のお田植え

古代米の田植えを行ないます。古代米のモチの試食もあります。

開催日時 5月25日（日）

午前10時から12時まで

協力 長坂町名水アイガモ米生産組合

定員 20名

開催場所 日野春農村公園棚田

持ち物等 着替え（はだしで田んぼに入るため）・汚れてもよい服装

森の工作教室

☆本立て・マガジンラック・状差などを作ってみよう！

5月4日（日）午後1時から3時まで

5月10日（土）・17日（土）

午前10時から12時まで

☆糸鋸（いとのこ）を使って自分だけの木のパズルを作ってみよう！

5月5日（月）・24日（土）

午前10時から12時まで

講師 田中 旻

定員 各日20名

開催場所 森林科学館

服装 作業のできる服装

入館料 大人400円、小中学生200円

（町内中学生以下は無料）

※ 所要時間はそれぞれ最低1時間です。

※ 本立て等は、材料費が必要です。500円～。

里山の工作教室

イタドリ茎の水車、竹鉄砲作りなどを行ないます。

開催日時 5月18日（日）

午前10時から12時まで

定員 20名

開催場所 森林科学館

服装 作業のできる服装

入館料 大人400円、小中学生200円

（町内中学生以下は無料）

小枝で作る！虫の工作

強そうなカブトムシ、カッコいいクワガタムシを小枝で作ってみましょう！

開催日時 5月25日（日）

午前10時から12時まで

講師 田中 旻

定員 20名

開催場所 森林科学館

服装 作業のできる服装

入館料 大人400円、小中学生200円

（町内中学生以下は無料）

お問い合わせ・お申し込みは

〒408-0022

山梨県北巨摩郡長坂町塚川2812番地

長坂町オオムラサキセンター

TEL&FAX 0551-32-6648

URL <http://www.yatsui.gr.jp/ngs/oomurasaki/index.html>

オオムラサキ通信

NO. 60

発行：平成15年4月29日

編集：長坂町オオムラサキセンター

オオムラサキ博士になろう！

このコーナーでは、身近な自然のことや知っているようで知らない昆虫のことなどを紹介していきます。

地球温暖化と蝶の北上

近頃、関西や九州など暖かい地方にしか棲んでいなかった昆虫が中部地方や関東でも見られるようになっていきます。ミカンの葉を食べるナガサキアゲハはその名の通り、1940年ごろまでは主に九州地方にしかいないアゲハチョウでした。ところが50年代には四国・中国地方まで、90年代に入ると関西および東海地方まで分布を広げ、もはやナガサキアゲハという名もふさわしくなくなってしまいました。どうしてナガサキアゲハは北上したのでしょうか？

これには二つの理由が考えられます。一つは、九州に棲んでいたナガサキアゲハの中に寒さに対して強いものがいて、それらが北の方へ移動した、という理由です。人間にも生まれつき寒さに強い人と寒さが苦手な人がいるのと同じですね。そしてもう一つは地球の温暖化によって北の地方でも暮らせるようになった、というものです。もし、生まれつき寒さに強いものがいてそれが北上したのなら、現在南に棲むナガサキと北に棲むナガサキとでは寒さに対する強さが違うはずですが、大阪府立大学の吉尾政信氏は、鹿児島島のナガサキと大阪のナガサキとでは、寒さに対する強さがほとんど変わらないことを実験によって確かめました。そして、大阪府の冬の気温は30年前の鹿児島島の冬の気温と同じぐらい上昇していることも明らかにしました。こうなると、ナガサキアゲハは地球の温暖化によって北上したと考えざるを得ません。

地球の温暖化はこれからも進むでしょうから、今後も南国で暮らすチョウたちが続々と北に来ると予想されています。チョウは大きくて目立つ昆虫ですから、人間はチョウの北上にはすぐに気づくことでしょう。しかし一方で、チョウだけでなく小さくて目立たない虫や微生物も同じように北上していることも私たちは知っておかなければなりません。そうした生物の中には作物を食べる害虫や、人間を病気にさせてしまう恐ろしい病原微生物だっているかもしれません。実際に最近、南国から日本に侵入して害虫になったり、人間の病気の原因になった微生物がかなりいます。美しい南国のチョウの北上は私たちの目を楽しませてくれますが、このことは裏を返せば、人間にとって厄介な生物の侵入を警鐘しているといえるのです。

（文責／自然とオオムラサキに親しむ会・小林隆人）



4月23日 「びばりうむ長坂」のエノキで。
幼虫は2匹いますが、どこにいるか分かりますか？

虫の本棚

—作品の紹介—

このコーナーでは、蝶や虫が登場する文学作品などを取り上げてご紹介します。

今回は、長坂町在住の 城谷英男氏 作・絵
「オオムラサキと木と少年と」 発行所 長坂町

都会育ちの少年が美しい町に越してきて、この町の林の中で自然となかよく生活しているおじいさんと知り合い、オオムラサキの不思議に魅せられていくお話が、みずみずしい色彩の絵と共に語られています。

巻末にはオオムラサキの一生、オオムラサキ自然公園や長坂町のマップなどがイラストで紹介されています。

作者は武蔵野美術大学卒業後渡仏、4年間パリの広告デザイン会社に勤務。帰国後フリーで絵本、イラスト、デザインの制作で活躍。絵本絵画展、同じく画家である奥様 岡村芳江氏との二人展など、東京・山梨を中心に作品を発表なさっていらっしゃいます。

12年前、お子様の誕生が大きなきっかけとなって長坂町への移住を決められたとか。主人公の少年には、そうした作者の気持ちが投影されているようです。

なお、この本は公的補助金による限定出版のため、書店では買う事ができません。当センター・長坂町の図書館などでご覧下さい。
(荒畑ふさ枝)

暖かくなり、エノキの若葉が出てくると、オオムラサキの幼虫も木を登り始めます。

去年は春が早く、オオムラサキセンターでも、3月に桜が咲いて散ったそうです。長坂町の隣村の大泉村では、昨年3月の平均気温は6.3度でしたが、今年は2.4度と昨年より低めです。オオムラサキの幼虫もそれを感じてか、「びばりうむ長坂」でもやはり昨年より木に登るのが遅かったようです。

しかし、いったん春がきてしまうと草木の芽はあっという間に伸びてゆきます。聞いた話では、新緑のピークはたったの1日だといひます。みなさんが毎日見ている庭や公園・学校の、新緑のピークはいつでしたか。

オオムラサキをはじめ、生き物は季節の変化に敏感です。私たちも、持っている五感を研ぎ澄まし、そうありたいものです。



「オオムラサキと木と少年と」 絵本表紙原画

長坂町森林科学館完成記念行事の一環として、5月10日まで森林科学館にてこの絵本の原画展を行っております。お誘い合せの上、是非お越しください。

4月6日(日)に、長坂町森林科学館の完成記念イベントが行なわれ、当日は100人を超える方々が来場してくださいました。

絵本「オオムラサキと木と少年と」の朗読では、スクリーンいっぱい映し出された温かい原画を前に清水章子先生が情感豊かに語り、参加者は長坂の自然に思いを馳せているようでした。

また、長坂町出身の清田まなみさんのコンサートでは、その伸びやかで澄んだ歌声はもちろん、地元の思ひ出話に参加者は大喜びでした。



触れる展示や引き出し式の展示もたくさんあります。何が入っているのかな？



コンサートでは、このイベントのために作られた「みどりの記憶」という楽しい蝶の曲も披露されました。

森林科学館に、 触って学べる展示が 入ったよ。



だんだん巣箱ができてきました。



公園内に、作った巣箱を掛けました。



おいしい野草はどれかな？

4月13日(日)午前10時から12時まで、講師に大原幸男さん(木工芸家)をお招きして、森林科学館で「鳥の巣箱作り」を行ないました。当日は約40人が参加しました。始めに、巣箱を利用する鳥の種類についての話を聞き、館内の剥製(はくせい)で鳥の大きさを確かめました。どんな鳥が利用するのか分かったところでいよいよ巣箱作りです。慣れない釘打ちに苦戦しつつも、鳥のことを考えみんな丁寧に作っていました。

4月13日(日)午後2時より、講師に柴山裕子さん(自然観察指導員)をお招きして、野草の観察とその料理の試食を行ないました。山菜の定番であるウドやカンゾウを始め、タンポポやつくしなどに「これも食べられるの？」と目を丸くしていた子供も大人も、天ぷらや油いためを食べみて納得!の様子でした。目でも舌でも春を存分に味わった半日となりました。

2003年度が始まりました。今年度も、よりよい施設を作っていくため、職員一同がんばっていききたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。